平成21年度　国土交通省
地域再生を担う人づくり支援調査

岩手県花巻市

太田地区振興会

太田地区の概要

- 岩手県のほぼ中央に位置する花巻市の西部に位置し、高村山荘や清水寺、スポーツキャンプむらなどがある。
- 稲作を主体とした、自然豊かな農村地帯である。
- 花巻市の人口 103,678人　35,824世帯
- 太田の人口 2,770人　698世帯
- 人口は横ばい状態も高齢化率は増加傾向

当該補助事業の申請に至る経過

- ♠ 平成18年1月1日に1市3町が合併
- ♠ 初代市長が、「小さな市役所」構想を掲げ、市内27箇所に振興センターを設置
- ♠ 振興センター毎に、住民組織である「コミュニティ会議」を設置し、「地域ビジョン」を策定することを奨励
- ♠ 当地区は、21年度に策定するべく準備中
- ♠ ビジョン策定の過程で、人材育成（人）と施設整備（物）の必要性が生じてきた
- ♠ 国土交通省の補助事業があることを知り、申請した

事業申請の基本構想と背景

- ♠ グリーンツーリズムの推進による交流人口の拡大
  - 農業体験プログラムの構築
  - 古民家を移築した「村の家」の活用
  - アドバイザーの養成
- ♠ 地場産品を利用した加工食品等の開発販売
  - 県道バイパスが平成26年に開通
  - 産直、食堂で販売、提供
  - 6次産業化の推進による農家収入の確保

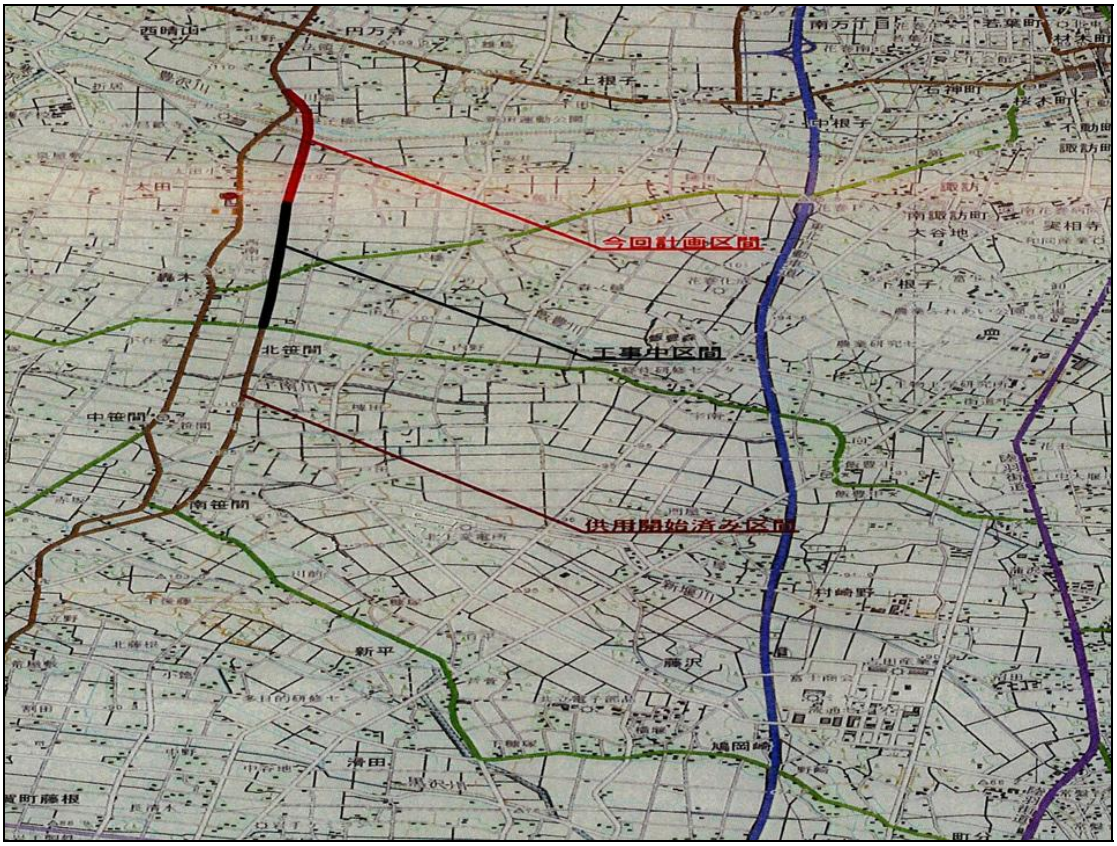
入口の門

「村の家」全景

かまど

いろり

工芸館　同じ敷地内にある。



具体的な取り組み

- 車座研修会
  - 集落代表者研修会　10月20日開催　85名参加
  - 各集落での研修会　10月28日から11月13日まで
    地区内10箇所で開催
    226名参加
- 地域づくり講演会　12月20日開催　200名参加
- 先進地研修視察　10月18日開催　31名参加
- ビジョン策定委員会　6つの専門部を設け、各専門部毎にビジョンを検討
  委員数79名

今後の展望と課題点

- ビジョンの策定
  - 平成21年度で策定
- 地域活性化のための施設整備
  - 「村の家」の改築
  - 産直施設の整備
- グリーンツーリズムの発展拡大
  - 都市間交流の推進
- 若手リーダーの育成

Ⅱ．大阪府柏原市

地域再生を担う人づくり　全国研修会

柏原太平寺まちづくり集会
活動報告

平成22年3月1日 柏原太平寺まちづくり集会

活動経緯

■大阪ミュージアム構想のモデル地区に選定

・『石畳と淡い街灯まちづくり支援事業』を活用し、ハード整備実施

・道路、水路、ぶどう棚、案内板、街灯などの整備を検討

OSAKA ミュージアム
大阪ミュージアム構想
"Osaka, The Museum" Concept

■太平寺地区を柏原市の地域主体まちづくりのモデルとして推進

・『地域を担う人づくり支援調査事業』を活用し、まちづくりを担う人材を発掘・育成

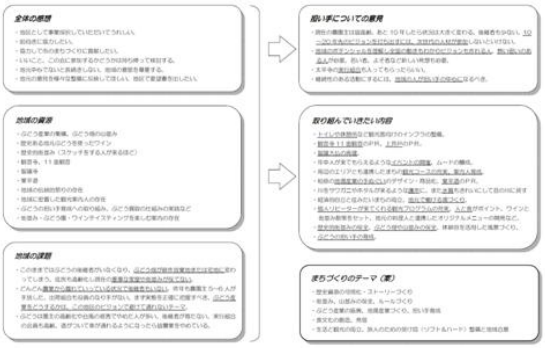
⇒柏原太平寺まちづくり集会発足

活動経緯

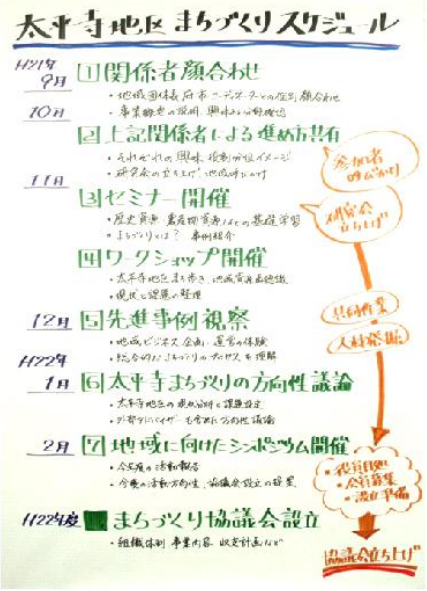
1. 各団体代表者の顔合わせ — 09/9～10月
2. 各団体主要メンバーでまちづくりの進め方共有 — 09/10/20日
3. 柏原太平寺まちづくり集会設立、進め方の共有 — 09/11/4日
4. 太平寺地区まちあるきワークショップ開催 — 09/11/17日
5. 先進事例視察（香川県東かがわ市引田） — 09/12/6日
6. 太平寺のまちづくりの方向性議論 — 10/1/20日
7. 柏原太平寺キックオフフォーラム — 10/2/21日

１．各団体代表者の顔合わせ
２．各団体主要メンバーでまちづくりの進め方共有

■事務局が各団体代表者との顔合わせ
資源と課題を認識を整理



■今年度の進め方の共有



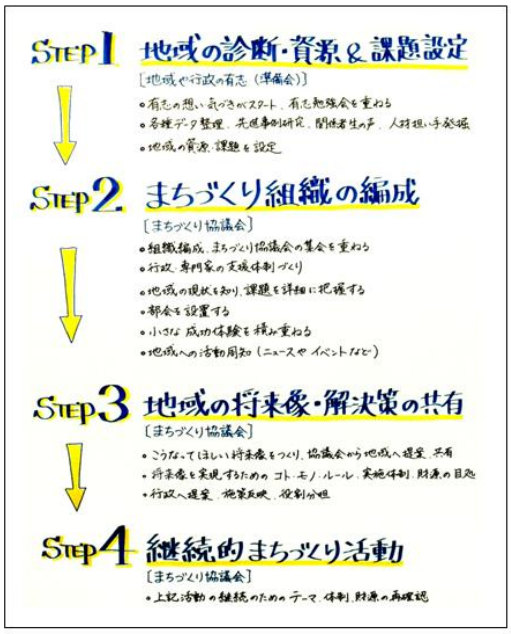
まちづくり集会のメンバー（現時点）

メンバー（23人）：太平寺地区住民、智識の会、柏原の郷土史を探る会、JA柏原、
柏原観光ぶどうセンター、カタシモワインフード、山常ぶどう園、
Rビンプロジェクト、柏原市消費生活研究会、料理研究家

オブザーバー　：大阪府、柏原市

３．柏原太平寺まちづくり集会設立、進め方の共有

■太平寺まちづくりの進め方を共有



■先進事例の進め方の紹介

●東大阪市高井田地域（住工共生のまちづくり）

●高松市４町パティオ
（中心市街地の小広場再生）

４．太平寺地区まちあるきワークショップ開催

■地域の方や各分野で活動されている方に案内いただきながら、
太平寺のまちを歩き、普段意識しないまちの魅力や物語を体感

■まち歩きの後、みんなで地域資源と課題を出しあい
⇒この情報を元に「**柏原太平寺資源＆課題MAP**」を作成

「柏原太平寺資源＆課題ＭＡＰ」

５．先進事例視察（香川県東かがわ市引田）

■地場産業、伝統的な街並みを活かしたまちづくりの活動経緯を学習

●ヒント
・空家になった庄屋を保存し、来訪者や地場産品販売の拠点施設とした
・新たなものでなく、各家にある既存のもの（雛人形）を活用してイベントを行った
・多くの空家を地域の女性が大家から借り受け、ギャラリー、飲食店、物販店を経営
・日本でここにしかない「かめびし醤油」、モノづくりの現場は迫力がある
・地場産業が続き、地域でメシが食えないと、次の世代は戻ってこない、自らの地域で生業を続けていく覚悟のある人がまちを動かす
・何もないところから、10年かけて地域の長老、おかあさん達、地場産業を担う若手、ヨソモノなどが力を合わせまちを変えてきた
・ヨソモノや来訪者を受け入れる心のあるまちには有能な移住者が居ついてくれる

６．太平寺のまちづくりの方向性議論

■太平寺のまちづくりテーマを議論

•歴史資源の活用	•食文化の創造
•農空間の保全	•来訪客のもてなし、受け皿整備
•ぶどう等地域産業の振興	•コミュニティづくり

■出席者全員が太平寺の将来の理想像、取り組みたいことを発表

●農産物直売、ぶどう園案内、休憩所として利用可能な拠点施設が必要。収益をあげて組織運営に充てる。地元の方が店番や食事提供をすれば雇用創出にもなる。
●東かがわ市を訪れ、居心地のよさを感じた。来訪者の受入れできるまちにしたい。
●子育ては地域ぐるみでないとできない。ここは子育てにいいまち。子どもたちへ地域文化を伝えられる大人、場があったらよい。
●歩いて楽しい変化のある道やお菓子がある喫茶がほしい。
●地域資源（石神社、観音寺、智識寺、おいしい水等）をPRしたい。チョコ販売も菓子屋に打診した。
●地元の状況は深刻。このままでは子供が住まないまちになる。皆で地域を守らないと次の世代が戻ってこない。地域外の様々な智恵を頂くのも大切。
●まちおこしのためのインフラ整備が必要。例えば個々の庭先を利用し来訪者用の有料駐車場整備などお金をかけずに地域にもメリットになる智恵を出す。優先順位をつけて活動することが大切。
●ぶどうを作りたい人は多いが、畑がないから作れない。お金は大切。儲かるとわかれば他に波及する。レストラン、ワイン祭、リース等も考えて儲かるまちづくりをしたい。

太平寺まちづくりの今後の展開イメージ

テーマ	展開例	活用できそうな地域資源	展開イメージ（類似先進事例）
歴史資源の活用	・街並み保全・ルールづくり ・夜間空間の演出（お祭りの提灯の活用など） ・歴史ロマンのストーリー化、イベント化（既存行事とのセット） ・仏像のわかりやすいPR、イベント ・古民家の活用→ショップor住居として活用	・紫平道 ・智識寺、大仏 ・観音寺、十一面観音像 ・石神社、神話、お祭り ・家原寺 ・横穴古墳 ・天照皇大神宮遥拝所 ・清浄泉 ・伝統的民家（茅葺屋根、つし二階民家）	●街並み修景（小布施町）●灯りイベント（半田）●仏像の魅力紹介（仏像ガール）
農空間の保全	・休耕田、耕作放棄地の活用 ・宅地化の抑制 ・山並み景観の保全 ・水質浄化、自然護岸 ・ホタル ・生産緑地活用の見直し	・ぶどう畑の山並み ・谷川のせせらぎ ・ぶどうのトンネル	●村並み景観保全（内子町・石畳）●棚田オーナー制度（綾町）
ぶどう等地域産業の振興	・ポスト観光農園、付加価値化、見せるぶどう ・ぶどう関連商品開発（料理、お菓子、化粧品など） ・地場商品のアンテナショップ ・手ぬぐい、染物、貝ボタン ・ワイン＋食のプログラム（フードツーリズム）	・観光ぶどう園 ・担い手育成の取組み ・ワイナリー ・ぶどうの古木 ・ぶどう関連商品 ・貝ボタン工場 ・化粧品会社	●地場産品の付加価値化（井上城陣園）●ワインツーリズム（小江）●ワイナリー（小布施）
食文化の創造	・郷土料理などのメニュー開発、ワインとの相性 ・レストランへのメニュー提供 ・各家庭のぶどう酒文化のPR、どぶろく（ワイン）特区 ・リターナブルビンの活用（地域ぐるみ）、大阪中の多様なワイン、デザイン化	・郷土料理、地場素材 ・ワイン ・各家庭のぶどう酒文化	●ワイン特区●郷土料理●リユースカップ（ワンディッシュエイド）
来訪者のもてなし、受け皿整備	・まちあるきコース ・オープンガーデン＋収穫祭イベント ・インフォメーション、案内版、マップ ・拠点施設 ・駐車場	・庭先のぶどう畑 ・様々な歴史的資源 ・地域密着の観光案内人 ・既存の案内コース（街並み、ぶどう園、ワインテイスティング）	●地域密着観光（オンパク、旅めがね）●オープンガーデン（小布施）●地域食文化発信イベント
コミュニティづくり	・住みたくなるまちへのPR ・新旧住民、外からの人の受け入れ		

太平寺まちづくりキックオフフォーラム

体験型見学会の様子（まち歩き）

太平寺まちづくりキックオフフォーラム

フォーラムの様子

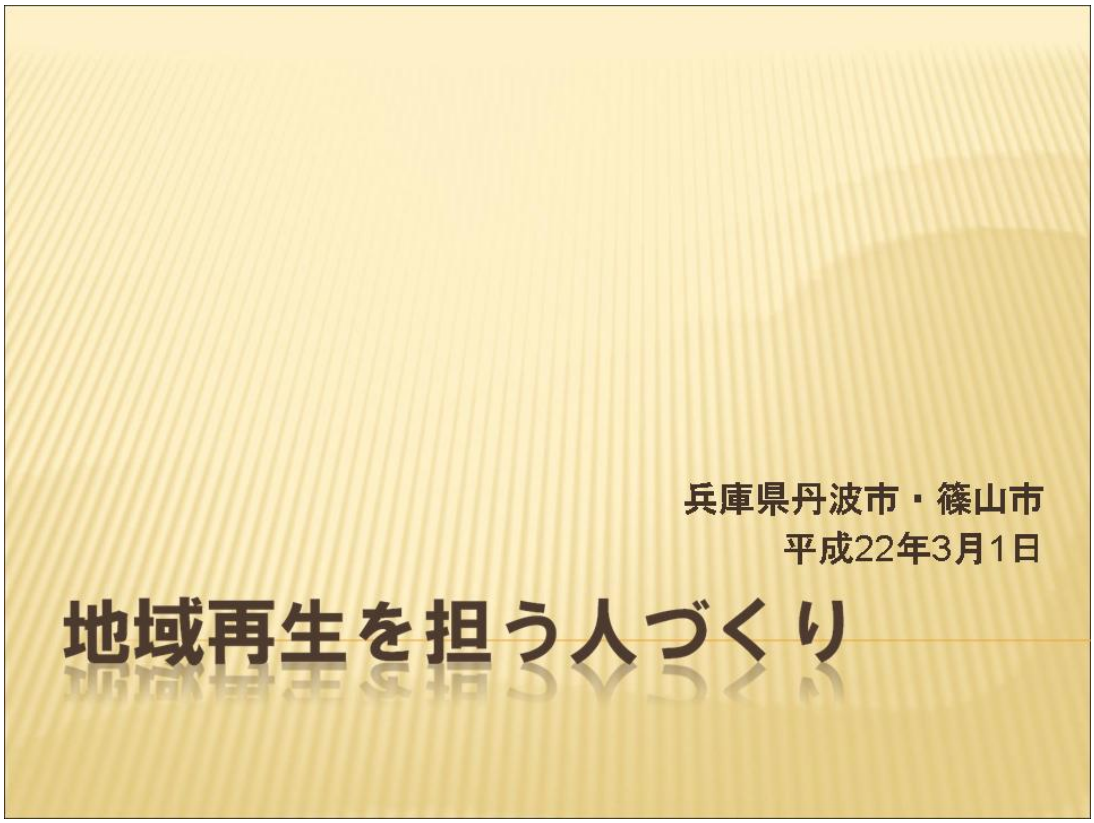
今年度の活動をふりかえって

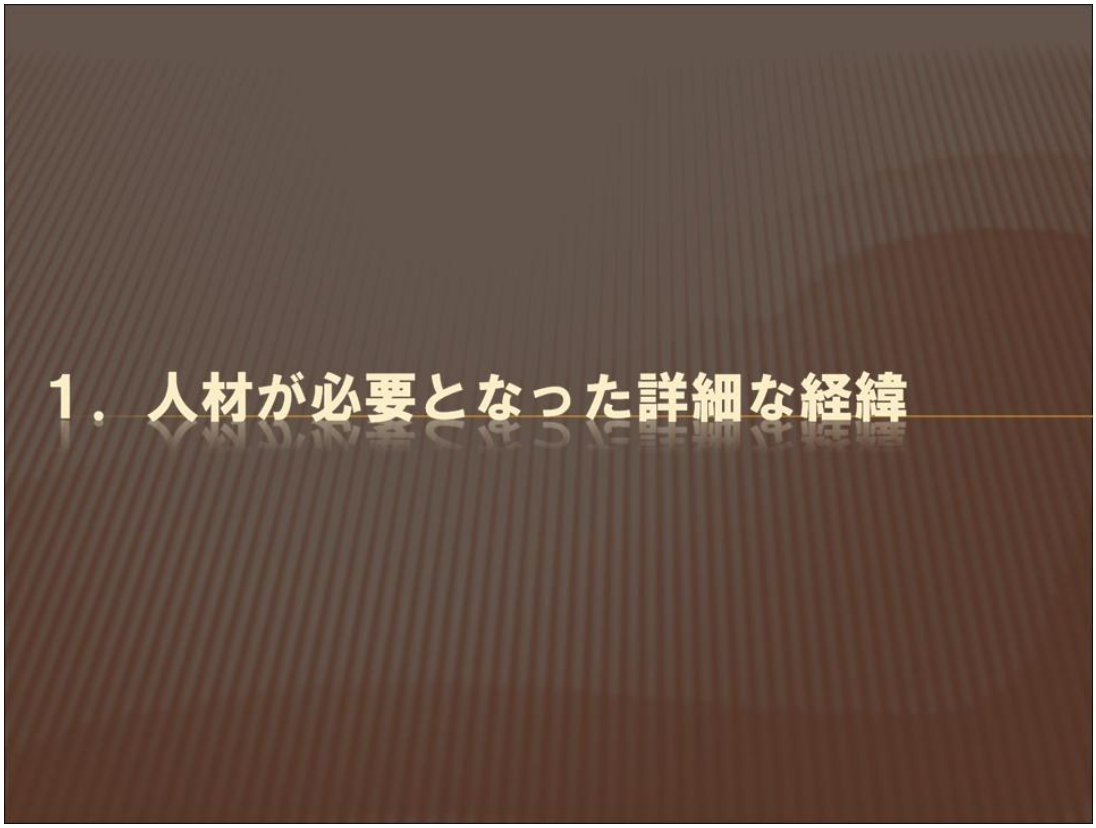
■参加者の意識の変化
・長年住んで何とも思わなかった地域が、外部の目から見るとこのような資源にあふれているとは！知事も大絶賛
・外部の応援団がこれだけいる
・まちづくりの進め方がおぼろげながらわかってきた
・ぶどうは衰退産業と考えていたが、まだ意欲的に取り組んでいる人がいる

■担い手に関わる課題
・様々な外部応援団と地域自治組織との共存共栄の方法
・跡継ぎのいない年配者と地域を担おうとする若者との感覚ギャップ
・地場産業を担う若手がメシを食える取り込み

■今後の展開
・地域＆外部による推進主体（まちづくり協議会）の組織化
・まちの将来像づくり＆具体事業の展開
・まちの交流拠点、地場産業、来街者の受け皿づくりなど

Ⅲ．兵庫県丹波市・篠山市





丹波市の恐竜化石の意義

○日本最大級の草食恐竜（竜脚類）ティタノサウルス形類の化石

○新種の可能性もある

○同一個体の脳函、生え出す前の歯、環椎、肋骨、腰骨、尾椎、血道弓など現時点で全身骨格の３割以上がまとまって見つかっている（国内最高水準）

○日本初の部位も多く、今後、世界でも少ない同形類の全身骨格が発見される可能性が高い。

○さらに、付近から肉食恐竜の歯や、鳥脚類の歯等も見つかっており、今後、さらなる発見が期待される。

丹波市で丹波竜の化石が発見されました。

丹波市では、丹波竜の里計画が策定されました。

丹波市計画のポイント

■丹波竜から、まちに新たないのちを吹き込む

（１）地元地域の再生に活かす

（２）知的財産の活用と「教育」に活かす

（３）ツーリズムなど交流をとおして経済活性　化に活かす

（４）情報発信とイメージアップに活かす

（５）広域連携とネットワークに活かす

篠山市で哺乳類や角竜などの化石が発見されました。

哺乳類、トカゲ、角竜、カエル化石の意義

■篠山市の小型脊椎動物化石

〇日本最古の哺乳類化石

〇まとまった形で残る白亜紀前期の哺乳類化石の発見は世界で初めて

※学術的価値は恐竜化石以上

〇小型は虫類等の化石も見つかっている

■角竜類

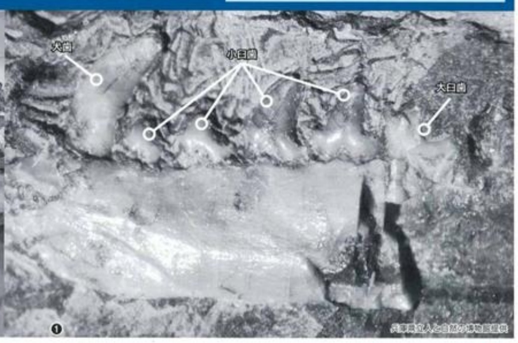
〇国内初（トリケラトプスの起源）

今後、市内に広く分布する篠山層群の露頭から脊椎動物化石や化石含有地が発見される可能性が高い。

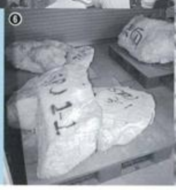
国内最古級の哺乳類 化石発見
―保護・活用へ―

市内に分布している地層「篠山層群」の白亜紀前期の地層（1億4,000万〜1億1,000万年前）から、国内最古と見られる哺乳類の化石などが発見。今後も多数の化石が発見される可能性もあります。ここでは、哺乳類化石の謎に迫るとともに、世紀の発見にかかわってこられた皆さんに登場いただき、その熱く懸命な姿を紹介します

■問い合わせ　企画課 ☎552-5106



①篠山層群で見つかった哺乳類の下あご骨の化石。左から犬歯、小臼歯4本、大臼歯が並んでいます
②記者会見には、多くの報道陣が駆け付けました
③記者会見で、化石の説明をされる「人と自然の博物館」三枝春生主任研究員（写真中央）
④6月15日から29日まで「人と自然の博物館」において、哺乳類の化石が公開。多数の方々が訪れました
⑤現在、「人と自然の博物館」では、化石のクリーニングが続けられています
⑥発掘現場から「人と自然の博物館」に運び出された岩盤



世界的な大発見

兵庫県立人と自然の博物館（三田市）は6月12日、市内の私有地で白亜紀前期の地層・篠山層群下部層から、国内最古と見られる哺乳類の化石などが発見されたと、篠山市役所で記者会見を行いました。発見者は、平成18年に丹波市で大型草食恐竜「丹波竜」を発見された足立洌さん。足立さんは、平成19年10月に篠山層群下部層で針金（直径2.5ミリ）、長さ6〜7センチのようなものを発見され、自宅の実体顕微鏡で調べられた結果、「脊椎動物の骨」だと確信されました。そして、平成20年5月に同博物館が本格的に発掘を行い、化石群の発見につながりました。

見つかったのは小型哺乳類の下あご骨3点や、トカゲの仲間である有鱗類の分離骨多数、恐竜の仲間である小型鳥盤類の歯1点など約50点。中でも、白亜紀前期の哺乳類化石は、国内では石川県白山市と福井県勝山市の2カ所だけで、篠山層群下部層と同年代の地層から見つかった化石は世界でも11例しかありません。また、見つかった哺乳類化石のうち1つは、長さ約25ミリの下あごに大臼歯3本、小臼歯4本、犬歯1本の計8本が完全な形で発掘。その臼歯の構造などから、人類の祖先を含む「原始的真獣類」とカンガルーなどの祖先を含む「原始的後獣類」が、進化の過程で分かれる直前の哺乳類「ペラムス類」か「トリボテリウム類」に属する新種（図1）の可能性が高く、10数センチのネズミに似た小型動物だと推定されています。

同博物館ではより詳しく調査するため、地層の化石露出部分（縦3メートル、横4メートル、厚さ50センチ）を切り出し、その岩盤を持ち帰りました。今回発見された化石は、その岩盤を切り離すときに見つかったもの。現在、同博物館では岩盤のクリーニング作業が続けられています。今後、多数の化石が発見されるとの予測に期待が高まります。

図1　哺乳類進化系統樹（一部抜粋）

大山小学校の児童が恐竜の化石を発見
―約1億4,000万年前の歯の化石―

篠山市と丹波市にまたがる白亜紀前期の地層「篠山層群」（1億4,000万年前〜1億1,000万年前）。ここでは、国内最古とみられる哺乳類化石や、大型草食恐竜「丹波竜」の化石が見つかっています。

この篠山層群から7月10日、大山小学校（足立仁校長）の6年生13人が、「総合的な学習の時間」において、恐竜のものとみられる化石を発見。兵庫県立人と自然の博物館（三田市）に調査を依頼した結果、肉食恐竜の歯の化石だと判明しました。

今回の特集では、同校の6年生たちから「丹波篠山・大山竜」と名付けられた化石を紹介するとともに、「大山化石発掘隊」の活躍を皆さんにお知らせします。

■問い合わせ　企画課 ☎552・5106

①篠山川河川敷で発見された肉食恐竜の歯の化石。長さは約8ミリで、側面にはノコギリのような突起があります
②化石を発見した大山小学校6年生の「大山化石発掘隊」の皆さん（赤井聡花、足立希羅、井上奈々、大前健太、斉藤光希、中澤芽実、長澤直斗、西井仁登、松尾香穂、宮本敬二朗、雪岡順二、雪岡栄鈴、渡邊杉菜）〔敬称略・順不同〕
③記者会見で、化石の説明をされる大山小学校教諭で兵庫県生物学会理事の酒井達哉さん（写真左）
④肉食恐竜の歯の化石を発見した足立希羅くんと、発掘の指導をされた足立洌さん（写真左）
⑤化石発掘体験授業の様子。児童たちは、河原に転がる岩石をハンマーで割って化石を探しました

肉食恐竜の歯の化石を発掘

大山小学校の6年生13人が、総合的な学習の時間に篠山川の河川敷（大山下）で、獣脚類（肉食恐竜）の歯の化石を発見しました。

人と自然の博物館によると、化石は長さ8ミリ程度。側面にノコギリのような突起があり、歯が生え替わる際、自然に抜け落ちた脱落歯と見られています。また、詳しい種類は判別できないものの、歯の大きさから、2足で歩行する体長1メートルから2メートルの小型肉食恐竜と推定されます。

大山化石発掘隊がゆく

同校では、児童たちが化石を採集することで、地球の誕生や生命の進化の神秘、ロマンにふれさせようと、化石の発掘体験を実施。7月10日の第1回目の授業には、大型草食恐竜「丹波竜」や日本最古とみられる哺乳類化石を発見された足立洌さんを講師に迎え、化石の発掘体験が行われました。

この日、担任の酒井達哉教諭から「大山化石発掘隊」と名付けられた児童たちは、ハンマーやルーペを手に約6平方メートルの範囲で発掘に初挑戦。児童たちは、二枚貝や巻き貝などの化石約20点を見つけたほか、授業の終了間際に、足立希羅くんが足元の岩を拾ってハンマーで割ったところ、肉食恐竜の歯の化石を発見しました。

同校では、この化石を「丹波篠山・大山竜」と名付けるとともに、同博物館に寄贈することにしています。

重点保護区域に指定

今回の発見に伴い篠山市では、化石が発見された篠山川河川敷の一定区域は、今後も学術的および文化的な価値をもつ脊椎動物化石が多数発見される可能性が高いことから、7月30日に「篠山市脊椎動物化石保護条例」により重点保護区域に初指定（図1）。化石や土地の保護を進めるとともに、市民の皆さんの共有の財産として継承することにしました。

この指定により重点保護区域では、学術研究などにより土砂や化石の採取を行う場合は市の許可が必要となり、違反すると氏名などが公表されます。

MAP 図1.重点保護区域図

●指定の場所
篠山市大山下川向井坪168-12付近

●指定の区域
1級河川篠山川川代橋から上流250メートル間（約2万平方メートル）

●指定年月日
平成20年7月30日

●指定の期間
保護区域の指定を存続させる必要がなくなったと認めるときまで

特集

トリケラトプスの起源

国内初の角竜類化石発見

昨年6月に国内最古と見られる哺乳類化石が発見された宮田地区にある白亜紀前期の地層・篠山層群下部層（1億4,000万年～1億2,000万年前）。このほど、同じ現場で国内で初めてトリケラトプスなどに代表される角竜類の頭部化石の一部が見つかりました。

ここでは、兵庫県立人と自然の博物館　自然・環境評価研究部主任研究員の三枝春生さんの話を交えながら、化石の謎に迫りたいと思います。

■問い合わせ　企画課 ☎552-5106

兵庫県立人と自然の博物館（三田市）は11月28日、市内宮田地区にある白亜紀前期の地層・篠山層群下部層から国内で初めて、角竜類の化石が見つかったと、篠山市役所で記者発表を行いました。

発見者は、篠山層群で大型哺乳動物の歯（丹波竜）や国内最古の哺乳類化石を発見された足立洋一さん（丹波市）。足立さんは平成19年10月に、宮田地内の斜面で剥がれ露出した化石に気付き、化石を含んだ岩石を同博物館に持ち込んだことが今回の大発見につながりました。

見つかったのは、左あごの上顎骨（幅4.5㎝、高さ1.6㎝）、右あごの前顎骨（幅2.5㎝、高さ2.5㎝）、歯骨（幅1.5㎝、高さ2.5㎝）の3種類。上顎骨の特徴から、比較的多くのスネオケラトプス類とされたアーケオケラトプスは体長10メートルで、大きなえり飾りと3本の角をもっています。まだ、あごの大きさから、体長6～7メートルの恐竜の幼体と推定されて、二足歩行をしていたと見られています。

同様の化石は、これまでに中国やモンゴルで計5例見つかっているだけで、中国北西部・甘粛省の白亜紀前期の地層で見つかったアーケオケラトプス・オオシマイとの同一性があるようです。アーケオケラトプス・オオシマイは、上あごの歯と下あごの歯の形が違い、首の後ろのえり飾りがとても短いのが特徴です。

角竜類

白亜紀前期の東アジアが起源とされ、白亜紀後期（9,000万年前）には北米に渡って急速な進化を遂げました。最も進化したとされるトリケラトプスは体長10メートルで、大きなえり飾りと3本の角をもっています。

篠山層群、今後の発見に期待

今回の角竜類化石は、国内では初めての発見。角竜類の起源を探ることができる貴重な発見です。発掘された化石は、トリケラトプスの起源にあたるネオケラトプス類の中でも原始的な種にあたり、アーケオケラトプスに類似しています。まだ、部分的なものしかでていませんが、今後調査を進めれば、より多くの頭と顔の骨を見つけることが期待できます。現在、宮田地内の篠山層群からは、哺乳類のほかカメ類、鳥類の一部が発見されています。さらに、昨年に切り出した地層の断面にも、すでに数点の化石が見えています。篠山層群は、恐竜の宝庫。東アジアでの恐竜の進化をひもとく、大きなカギだと思います。

兵庫県立人と自然の博物館
自然・環境評価研究部
主任研究員　三枝春生さん

篠山市では、脊椎動物化石保護・活用計画の策定を進めています。

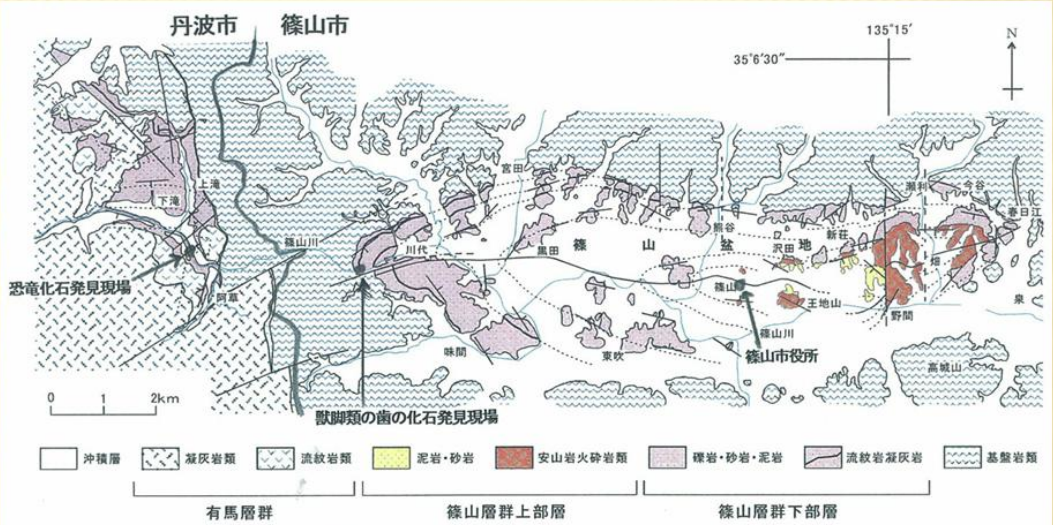
篠山層群における

「脊椎動物化石」及び「脊椎動物化石含有地」保護・活用計画

（案）

平成２２年１月１４日
篠　山　市

化石の発見発掘地は、篠山層群とよばれ、両市に分布する共通資源です。



篠山層群の分布　原図：吉川（1993）

両市では化石をきっかけに様々な活動が行われています。

篠山層群では今後も新たな発見・発掘が期待されています。

（１）人材が必要となった詳細な経緯

〇世界的な化石の発見・発掘

☆化石の発見・発掘をまちづくり（地域活性化）のきっかけにしよう！

→民間主導で様々な商品開発が始まる

・・・・・売れない

→地域主導でまちづくりが始まる

・・・・・活性化しない

☆うまくいかないと行政批判が始まる

→なぜ？？？お金（予算）がないから？？？

→目先のこと、自分のことしか考えていない

・・・・・考え方やプロセスが間違っている

（２）地域再生に求めるもの

○全体性の回復（風が吹けば桶屋が儲かる）
　・海をきれいにしようと考えると山から始めないと・・・
○バランス感覚の取り戻し
　・地域全体が潤う。
　・特定の主体だけが儲かるというのはダメ！
○知識偏重～知恵・叡智への欲求
　・自分で手を動かす、経験するなど、必ず実体験が伴う。
○世界標準の金太郎飴（グローバル）～地域性（グローカル）
　・歴史的文脈や物語性など、そこにしかないものに価値がある。
　・その価値に人が群がる。
○環境（持続可能性）の視点重視
　・環境に意識のないまちづくりは続かない

（３）地域再生を担う主体に求めるもの

○ 社会的使命（ミッション）をもった自立・互恵的活動
○これらの活動を支える“新しい感覚”の運営主体づくり
　・プロデューサー的役割
　・ディレクター的役割
　・シナリオライター的役割
○社会的経済の循環
　・ボランティア活動の限界（志だけでは活動が継続しない）
　・コミュニティ経済の重要性（地元にお金が落ちないと続かない）
　※この部分を行政の支援だけに頼るのは不可能な時代に

大切なことは、自分たちの地域を深く見つめること。
強いコンセプトは、そこから生まれる。
『地ブランド』（弘文堂）

２．自分の地域に必要な人材の姿（自らが目指す姿）

（１）具体的にどのような能力・ノウハウが必要と考えるのか？

■エリアプロデュース＆マネジメント

①地域の自然・人・文化・産業等の資源を活かして、
②問題点や課題の解決方法のシナリオを作り、
③それを実践するための具体的な仕組みを作り、
④資金調達して地域を巻き込んで実際に行動し、
⑤公益的で経済的な効果を継続的に還元すること

（２）それを得るにはどうすればよいと考えるのか？

もっとも大事なのは、
「人づくり」と
「推進母体づくり」

（３）もっと具体的に

■アクション誘発剤となる（人づくり）本物講座と推進母体づくり

①アクション誘発剤となる（人づくり）本物講座

・丹波地域のイメージ戦略（丹波市、篠山市のＣＩを担当されたデザイナー）
・田舎起業（都市から田舎にお客を送り込むツーリスト）
・食の特産品開発（害獣である“鹿”とスイーツ）
・売れる丹波（地域雑誌編集長）

②推進母体づくり

・市民参画フォーラムの開催（市民への呼びかけ）
・恐竜・哺乳類化石等を活かしたまちづくり推進協議会の設立
・エリアマネジメント研究会（中間支援組織）の設立

人づくり本物講座	推進母体づくり
講座１：丹波地域のイメージ戦略 講　師：鳥山大樹 （㈱バード・デザインハウス代表取締役）	平成22年1月29日（金） 恐竜・哺乳類化石等を活かしたまちづくり 参画フォーラム
講座２：コミュニティビジネス起業 （ツアープログラム開発） 日　時：平成22年2月5日(金） 講　師：越道正芳 （つばさプロジェクト） 実践１：室生・里めぐり 日　時：平成22年2月24日（水）	
実践２：食の特産品開発 【鹿肉料理】 第1回　平成22年1月12日 第2回　平成22年1月20日 第3回　平成22年2月8日 【スイーツ】 第1回　平成22年1月16日 第2回　平成22年1月24日 第3回　平成22年2月10日	
講座３：雑誌編集者から見る丹波地域の 魅力について 講　師：宮崎周文子 （雑誌『大人組Kansai』副編集長）	平成22年1月26日（金） たんば恐竜・哺乳類化石等を活かしたまちづくり 推進協議会（仮称）設立総会

３．アクション誘発剤となる（人づくり）本物講座

（１）丹波地域のイメージ戦略

日時：平成22年1月29日（金）13:30～

※恐竜・哺乳類化石等を活かしたまちづくり参画フォーラムと同時開催

講師：鳥山大樹

（㈱バード・デザインハウス代表取締役）

イメージづくりとは？

●イメージ論・・・「イメージ」という言葉のもつ機能

① 混乱しているものごとが整理される
② 情報によって形成される
③ その人の行動をリードする
④ 自分の価値観や美意識にあったイメージのみを受け入れる

ゆえに、イメージのないところに人は集まらない。
イメージは実態を伴った活動の積み重ねで創られる。
イメージ戦略とは、受信者がイメージしやすいように情報を発信するクオリティ・コントロールシステムである。
純度の高いイメージは、ブランドとなる。

地域を売るためのメモ

◆商品開発は、消費者の好感を持ってもらうバトル。消費者目線忘れるべからず。

◆１，０００に３つしか新商品は翌年には生き残らない。

人の行動原理は、
論理的でなく、直感的（生理的）。

◆消費者は生理的にその商品を買うか判断する。

◆２秒（真実の瞬間）。清涼飲料水を選ぶのに有する時間で、消費者は生理的にその商品を買うかどうか判断する。

◆正しいかどうかではなく一瞬にして、消費者の心（好意）をキャッチしなければいけない。

（２）コミュニティビジネス起業

日時：平成22年2月5日（金）13:30～

講師：越道正芳

（つばさプロジェクト代表）

ツアープログラム開発のポイント

語れる人づくり

田舎（体験）ツアーの信用は、企画者と実践者の人柄に尽きる。

特別実践講座　ツアープログラム

日　時：平成22年2月24日（水）7:30～
場　所：奈良県室生町
テーマ：室生・里めぐり
講　師：越道正芳
　（つばさプロジェクト代表）

食の特産品開発

内容：鹿肉と丹波食材を使った料理
　　栗、大納言小豆等を使ったスイーツ
会場：兵庫県立 丹波の森公苑
講師：園田学園女子大学教授　川原﨑 淑子
　　園田学園女子大学生活文化学科　准教授　廣瀬 好春

【鹿肉料理】

第1回　平成22年1月12日午前10時
　オリエンテーション
　メニュー　かのししどんぶり
　食材　鹿肉、ごぼう、卵　他

第2回　平成22年1月20日午前10時
　メニュー　テリーヌ
　食材　鹿肉、丹波黒豆、人参、季節野菜他

第3回　平成22年2月8日午前10時
　メニュー　エスカベッシュ
　食材　鹿肉、タマネギ、ピーマン　他

懇談会　交流懇親会

【スイーツ】

第1回　平成22年1月16日午後1時30分
　オリエンテーション
　マロンマカロン
　食材　丹波栗　他

第2回　平成22年1月24日午後1時30分
　マンデルスパニッシュ
　食材　丹波栗、丹波黒豆

第3回　平成22年2月10日午後1時30分
　キャラメルマロンケーキ
　食材　丹波栗　他

懇談会　交流懇親会

（３）雑誌編集者から見る丹波地域の魅力

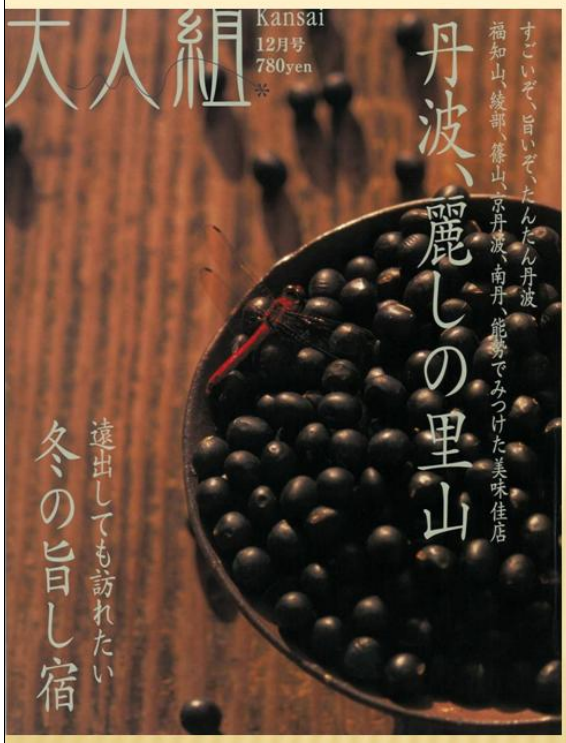
日時：平成22年2月26日（金）13:30～

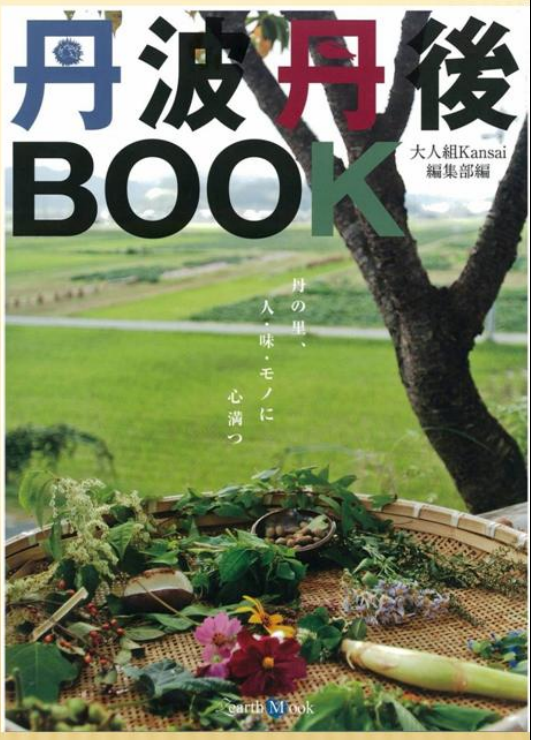
※恐竜・哺乳類化石等を活かしたまちづくり推進協議会設立総会と同時開催

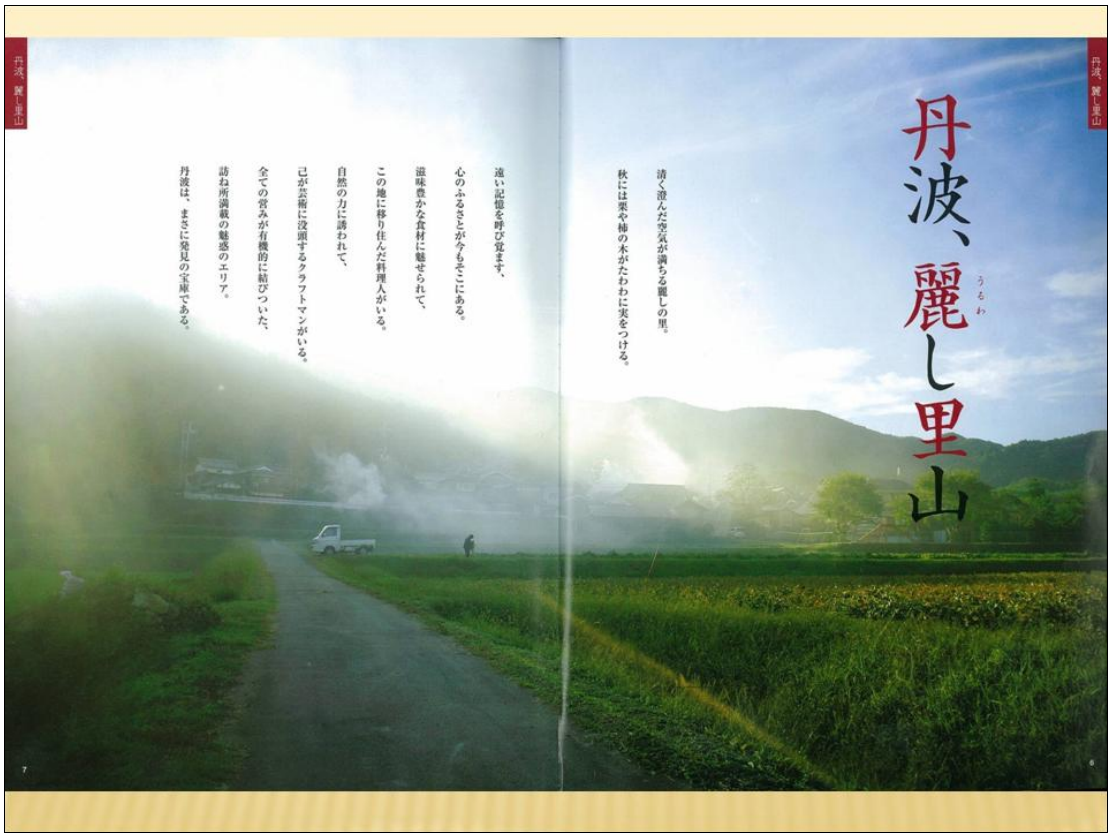
講師：宮崎周文子

（雑誌　大人組Kansai副編集長）

たんば恐竜・哺乳類化石等を活かした
まちづくり推進協議会（仮称）設立総会
記念講演
雑誌編集者から見る丹波地域の魅力
について
宮崎 周文子
雑誌『大人組Kansai』副編集長


大人組
Kansai
12月号
780yen
すごいぞ、旨いぞ、たんたん丹波
福知山、綾部、篠山、京丹波、南丹、能勢でみつけた美味佳店
丹波、麗しの里山
遠出しても訪れたい
冬の旨し宿

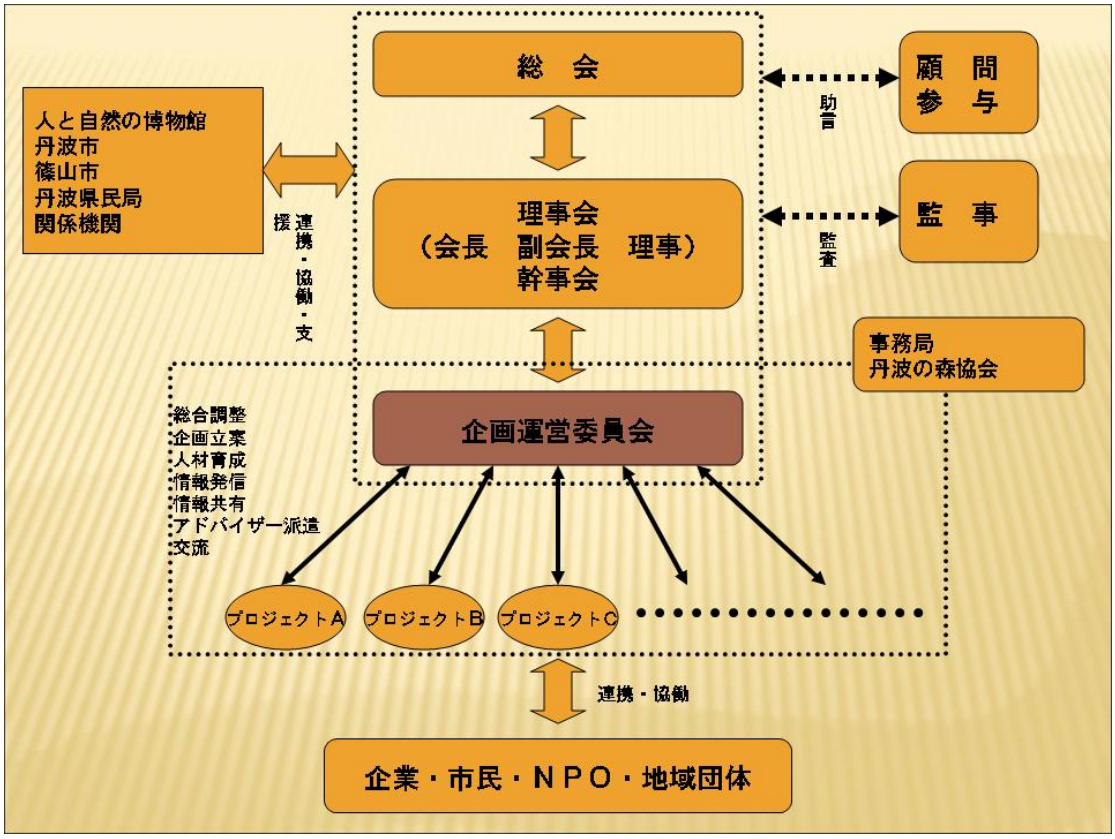

丹波丹後
BOOK
大人組Kansai
編集部編
丹の里、
人・味・モノに
心満つ
earth Mook


丹波、麗（うるわ）し里山
清く澄んだ空気が満ちる麗しの里。
秋には栗や柿の木がたわわに実をつける。
遠い記憶を呼び覚ます、
心のふるさとが今もそこにある。
滋味豊かな食材に魅せられて、
この地に移り住んだ料理人がいる。
自然の力に誘われて、
己が芸術に没頭するクラフトマンがいる。
全ての営みが有機的に結びついた、
詰め所満載の魅惑のエリア。
丹波は、まさに発見の宝庫である。

4．推進母体づくり

設立の目的

篠山層群で発見された世界的にも希少な恐竜・哺乳類化石等の価値及び意義並びに丹波地域の魅力を広く全国に情報発信しながら、地域一体となった市民主導のもとに持続可能な地域づくりを進め、もって丹波地域の発展に寄与することを目的とする。



何を期待しているのか？

①市民自らが化石を活用し（きっかけとし）、
②丹波地域の自然・人・文化・産業等の魅力資源と結びつけ、
③地域がかかえる問題点や課題の解決方法のシナリオを作り、
④それを実践するための具体的な仕組みを作り、
⑤資金調達して地域を巻き込んで実際に行動し、
⑥公益的で経済的な効果を継続的に還元すること

推進協議会の活動内容

（１）プロジェクトの企画調整
　①個別プロジェクトの調整及びプロジェクト相互の調整
　②独自プロジェクトの企画・提案
　③プロジェクトの推進方策の検討
（２）人材育成
（３）情報発信・交流事業
（４）その他

５．次なる展開へ

（１）当面（永遠）の課題

～ヒト×モノ×カネのベストバランス～
当面のヒトとモノはそろった

○一歩踏み出すための社会実験等に要する費用捻出（資金調達）

○具体アクションに展開した際のイニシャルコスト

（２）具体展開

＜プロジェクトＡ＞

つばさプロジェクトによるツアー開発

・化石体験ツアー（発見地）

・ホタルツアー（曽地中集落）

・田舎満喫ツアー（丸山集落、大山集落）

＜プロジェクトＢ＞

食の特産品開発

・鹿肉料理専門店オープン（柏原）

・鹿肉料理研究（丸山集落）

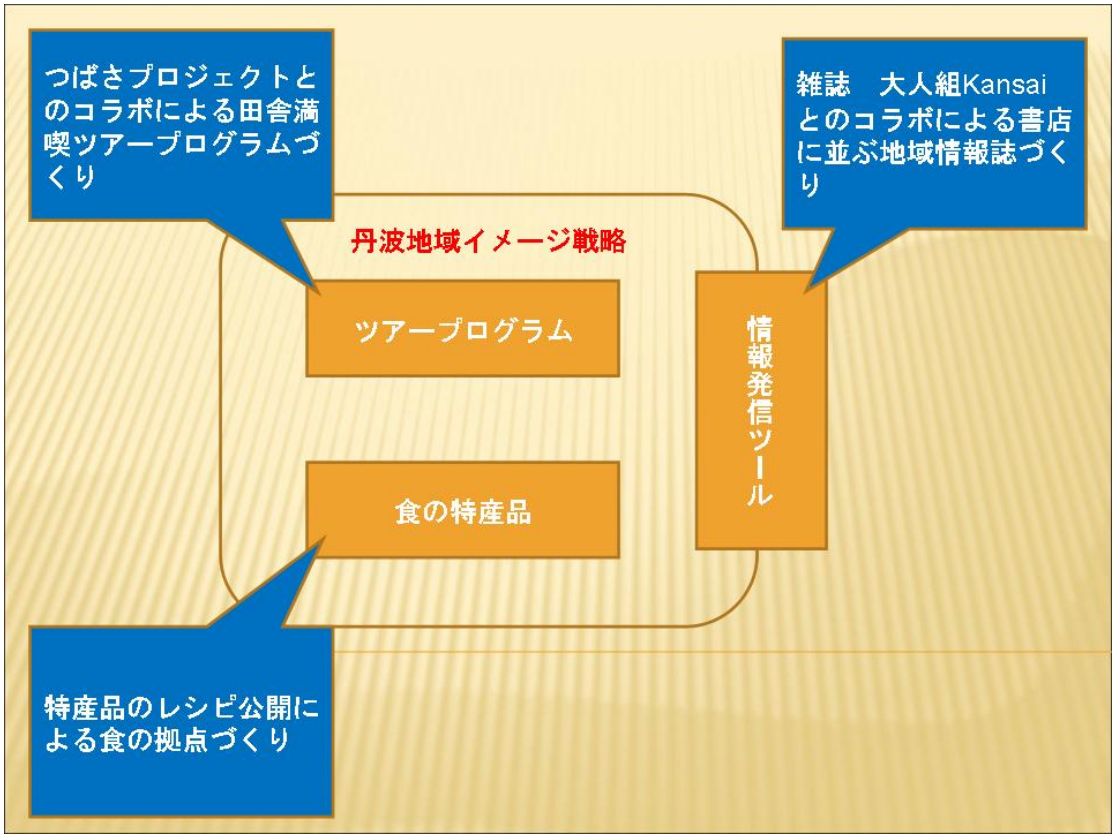
＜プロジェクトＣ＞

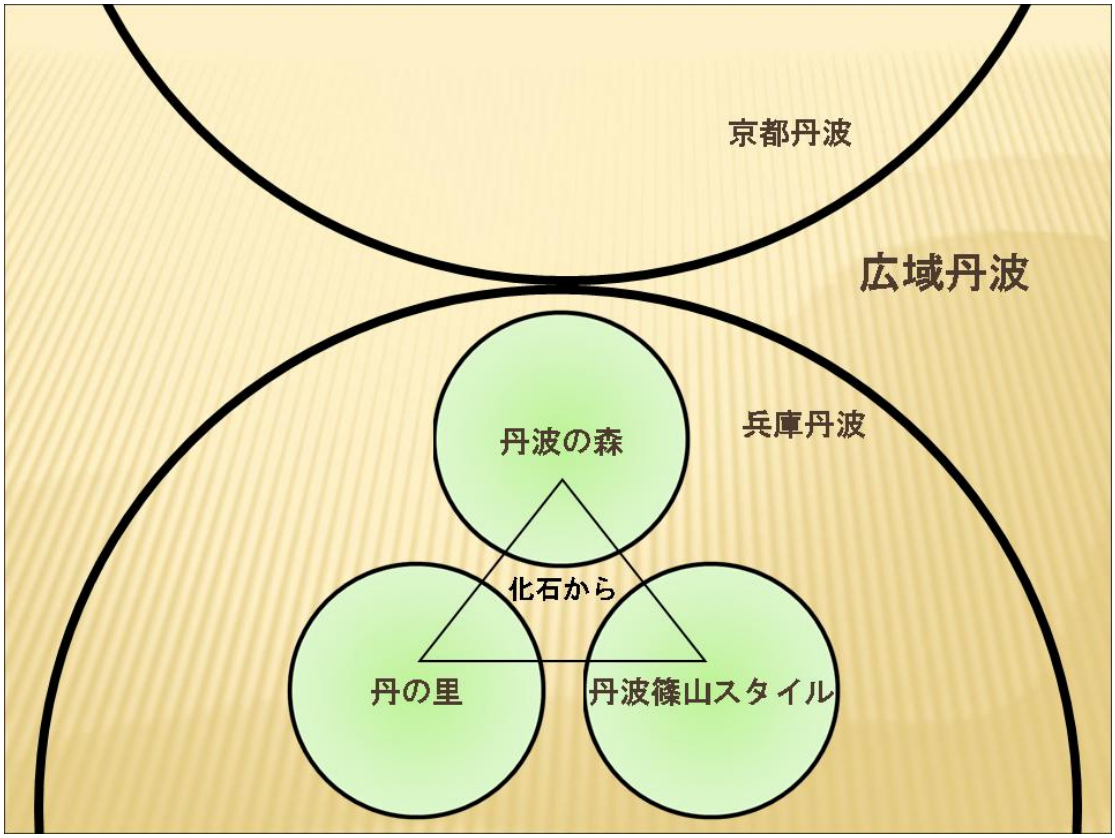
大人組Kansaiによる地域情報誌の発行

○住民参画型の地域情報誌『丹波BOOK』

・手元に残るまちづくりの記録として

・書店に並ぶ丹波ガイドブックとして




京都丹波
広域丹波
兵庫丹波
丹波の森
化石から
丹の里
丹波篠山スタイル

Ⅳ．奈良県黒滝村

地域再生を担う人づくり支援調査事業
黒滝村グリーンツーリズム協議会

■ 黒滝村の概要
▪ 黒滝村は、奈良県の中央に位置し「ならのへそ」とも呼ばれ、吉野山地の美しい山々に囲まれた村である。桜で有名な吉野山の南側の村域内には、世界遺産の吉野大峯奥駈道や理源大師石の廟塔等の重要文化財を有している。
▪ 村人口は約950人で、年々減少し続け、典型的な過疎地域となっている。
▪ 村の総面積の約96%を林野が占める「森の郷」主要産業である林業の不振も長期に渡り、観光客も年々減少しているのが現状である。
大淀町
下市町
黒滝村
東吉野村
川上村
吉野町
天川村
上北山村
十津川村
下北山村

■ 事業の取り組み

- 現在行っている体験プログラムを拡充し、「自然体験」「農林業体験」「郷土料理」「アウトドア」など、訪れた方々に自然豊かな黒滝村をまるごと体感していただく様々なプログラムを提供したい。
- 各分野の体験名人を集め、体験型観光を促進する組織（協議会）を立ち上げるとともに、担い手の育成を進めたい。
- 地域資源の掘り起こしを図り、様々な体験学習プログラムを年間通して実施したい。
- 村を訪れる方々や訪れようと計画されている方々に利用していただきやすくするために、全体を取りまとめる組織（窓口）を設置し、わかりやすい情報を提供できるようにしたい。
- 都市部の小学校や中学校の体験学習の場として活用していただけるよう、積極的に情報を発信していきたい。

■「じゃ～どうするの？」 3つのテーマ

組織…組織を整備し、各種団体が別々で行っている体験イベントを一元化することで、各種体験の組み合わせによる多様な体験学習プログラムを開発する。黒滝村全体の魅力を一斉に発信及び提供する。組織化することで安全対策も万全に整える。上で、地域に誇りを持つ観光＆体験ガイド等の育成を行う。

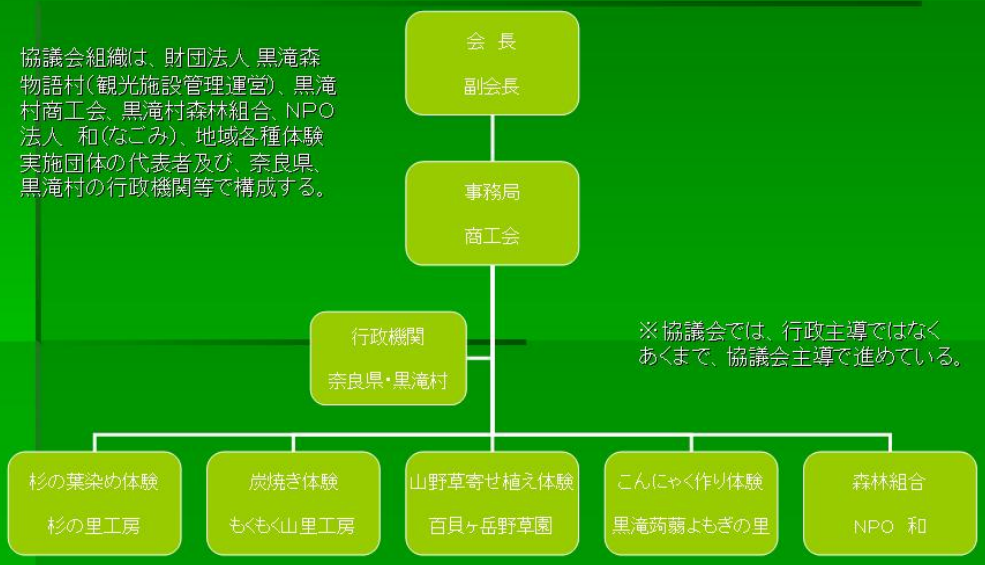
育成…住民自らがまず地域のことを知ることで、地元地域に誇りを持っておもてなしできるようにする。その延長線上で、地域に誇りを持つ観光＆体験ガイド等の育成を行う。

資源…地域住民が気付かないまま、当たり前のこととしてきた「眠っている地域資源（地域のお宝）」を掘り起こし、新たな魅力情報を発信する。

■ 協議会構成

会長（1名）・副会長（1名）・事務局（2名）・委員（16名）で構成されている。

協議会組織は、財団法人 黒滝森物語村（観光施設管理運営）、黒滝村商工会、黒滝村森林組合、NPO法人 和（なごみ）、地域各種体験実施団体の代表者及び、奈良県、黒滝村の行政機関等で構成する。



※協議会では、行政主導ではなく
あくまで、協議会主導で進めている。

■ 活動内容

黒滝村グリンツーリズム協議会

月　日	名　称	内　容
10月1日（木）	第1回研修会（東京）	基調講演・ワークショップ（事業報告）
11月6日（金）	事前打ち合わせ説明会	協議会設立に向けて
11月12日（木）	第1回協議会	協議会設立
11月26日（木）	第2回協議会	渡邉 隆氏 講演会実施 ・ 事務局現地ヒアリング
12月9日（水）	第3回協議会	
12月15日（火）	第2回研修会（東京）	基調講演・ワークショップ（中間報告）
12月16日（水）	研修会（東京）	菅原由美子氏 研修会
12月21日（月）	第4回協議会	
1月14日（木）	第1回企画委員会	
1月25日（月）	第2回企画委員会	
2月16日（火）	第5回協議会	事務局現地ヒアリング
2月22日（月）	第3回企画委員会	イベント最終確認
2月27日・28日	黒滝おもしろ体験	村民向けイベント 周知及びモニターイベント
3月1日（月）	全国研修会（東京）	実績報告会
3月2日（火）	先進地視察研修（長野県）	NPO法人ピッキオ（軽井沢市）へ現地施設
3月中実施	第6回企画委員会	事業実施報告会

■ 協議会・研修会等 実施状況

アドバイザー　渡邉 隆さん

「観光交流のまちづくり？」講演会

講師　渡邉　隆　氏

・観光交流のまちづくり　その目的は？
・方法論としての体験プログラムについて　など

先行事例や失敗事例などを含めながら、体験イベントを実施するに当たり、安全性やマネジメント、マーケティングなどについてお話していただきました。
※交流を疎かにしてはいけない。
「理由や背景の説明」が必要である。

■協議会・研修会等 実施状況

「ゼロからの組織づくり」研修会

講師　菅原　由美子　氏

・組織づくりに必要なこと
・組織を創るにあたり必要なこと
・宣伝ルートの確保の仕方　など

組織づくりをテーマに先行事例や失敗事例などを含めながらお話していただきました。
※成功の鍵は「人材」にある。

協議会・企画委員会

個性豊かなメンバーは、まとまっていないようでまとまっている。夜遅くまで、議論討論を繰り返した。
意見が多すぎるため、途中からは企画委員会として、少人数での協議を行った。

■ レギュレーション

各体験で使用する説明書の作成

■ 黒滝おもしろ体験（村民向け体験イベント）

黒滝のおいしい空気の中で自然とふれあい、地域の人とふれあう2日間。
大自然の中で、体験を通して地元黒滝村の良さを知ってもらいます。

（体験内容及び開始時間）

【1日目】 2月27日（土）

・午前10:00～ **炭焼き体験**
もくもく山里炭工房

・午後13:30～ **杉の葉染め体験**
杉の里工房

【2日目】 2月28日（日）

・午前10:00～ **こんにゃくづくり体験**
黒滝蒟蒻よもぎの里

・午後13:30～ **山野草寄せ植え体験**
百貝ヶ岳野草園

◎ 目的

地域の方々にまず地元のこと知ってもらうと共に、この取り組みを理解していただく。広報用の写真撮影（作業）や聞き取り調査を行う。

黒滝おもしろ体験
炭焼き体験
杉の葉染め体験

黒滝おもしろ体験
こんにゃくつくり体験
山野草苔玉作り体験

■「ピッキオ」視察研修会

平成22年3月2日
株式会社 ピッキオ（NPO法人 ピッキオ）
場所 長野県軽井沢市

- 組織体制やプログラムの開発、従来の観光と違った滞在・体験型観光の形態を構築するため、先進地である株式会社「ピッキオ」の取り組みを研修し、それを今後の協議会の運営に取り入れていけるように実施する。

■ まとめ

地域資源
- 地域人材
- 地元地域を知る
- 地域交流、都市交流

→ **組織設置**
- 体験イベント一元化
- 安全対策
- 連携「助け合い」

→ **レギュレーション**
- 概要説明書の作成
- 料金設定
- 情報交換会

↓ **プログラム**
- モニターツアー実施
- イベントの実施
- 体験メニュー開発

→ **情報発信**
- 体験ガイドマップ
- ホームページの作成

→ **地域交流 都市交流**

【平成22年度の取り組み】
- 5月15日～16日　体験宿泊イベントの実施　（平城遷都1300年関連イベント）
- 7月　稲田塾生約80名体験宿泊受け入れ
- 9月～11月　体験宿泊イベントの実施　（平城遷都1300年関連イベント）

■ 今後の取り組み （課題問題点など）

・情報発信、広報
ホームページによる情報発信及びパンフレットの作成する。

・組織窓口設置
現段階では受け入れ組織の拠点が存在せず、確立させていく必要がある。

・人材の確保
協議会に参画していただける方を確保する。

・組織名の変更
黒滝村らしく、親しみやすい名前を考え決定する必要がある。

・林業体験メニューの開発
黒滝村の主産業である林業を体験メニューに取り入れることで、黒滝村知ってもらえる。運営マニュアルの作成。
同時に、森林インストラクター等の人材育成も行いたい。

・協議会の自立（継続）
補助金の確保等に努めて、継続的な運営を行う。

・都市住民との交流促進
黒滝村をふるさととして愛してくれる人を増やす。

黒滝村に遊びに来て下さい♪

平城遷都1300年祭
キャラクター　せんとくん